



授業の鍵を握る教師の発話

◆ 発話とは、言葉を声に出して発することを指します。

◆ 思考力、判断力、表現力等を育む授業の第一要件は、子供が思考、判断、表現する時間が十分に確保されており、その間、教師は原則発話しないことです。授業研究等で、教師の発話時間と、教師が黙して語らず子供が考え、表現している時間を計測し比較してみることは、多くの場合改善につながります。

◆ 一方、授業は、発問や説明、指示など、教師の発話によって成立します。その

内容は、子供たちの学ぶ意欲や学習の広がり・深まりに大きく影響します。

以下に示すのは、1単位時間の授業の流れに沿った、教師の発話例です。



【導入】

① 身に付く力とその価値を自覚させる。

(例)「今日の学習の目標は、〇〇することができるようになることです。」<力の自覚>
「〇〇ができるになると、△△する際に役に立ちますよ。」<価値の自覚>

② 力を付けるための学習の流れを伝える。

(例)「まずは資料を読み、自分の考えをノートに書きます。その後、意見交流を行い、各自の考えを補強します。」<学習活動の自覚>

【展開】

③ 子供の発言を生かすことで、論理的思考を促す。

(例)「Aさんの考えに、付け足しはありますか。」<補足>
「Aさんの考えを別の言葉で説明できますか。」<言い換え>
「AさんとBさんの考えを聞いて、気付いたことはありますか。」<関連付け>
「AさんとBさんの考えを比べると、どのような違いがありますか。」<比較>
「Cさんの考えの〇〇ということについて、どう思いますか。」<分類>
「友達の考えを参考にして、自分の考えをまとめましょう。」<再考>

④ 話合いのねらいを明確に伝える。

(例)「話し合っ、考えを一つにまとめましょう。」<収束的思考>
「話し合っ、できるだけ多くの考え方を見付けましょう。」<拡散的思考>

【終末】

⑤ 学習の成果や新たな課題を自覚させる。

(例)「学習を振り返り、新たに分かったことを書きましょう。」<学習成果の認識>
「学んだことを生かし、更に学習したいことは何ですか。」<新たな課題の自覚>